

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出	□10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	26	春野	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○主体的に学び、自己の将来は自分で決定し、その実現のために努力する生徒 ○時を守り、場を淨め、礼を正す生徒			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) 本校は2年次から4系列に分かれ、自分の興味・関心に合わせて主体的に学ぶことができます。 ○園芸系列…土佐文旦・アジサイなど、高知県ゆかりの作物を生産し、高品質なもののづくりを通して地域の良さを発信できる力、仲間と協力する力を育むことを目指します。 ○食農系列…春野高校で育てた野菜や果樹を瓶詰や漬物に加工し、地域への販売実習を通し、社会性を育むことを目指します。 ○生活クリエイト系列…衣食住、保育や福祉等の知識や技術をさらに深めるとともに、体験的な学習を通して、主体的に行動できる生徒の育成を目指します。 ○人文系列…英語・数学・国語をはじめとする5教科を中心に学習を深めることにより、主体的に学ぶ姿勢を育みます。主に大学、短期大学、専門学校への進路を目指します。							
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○3年間の教育の成果は、自立と自律を持ち、高い志を持って未来を切り拓いていける生徒の育成にあると考えています。その原動力となるのが、基礎学力や人間力であり、未来を切り拓いていくには不可欠なものと捉え、キャリアノート・キャリアパスポートを十分活用した自己管理能力の向上を目指し、将来目標に向かって活躍できる生徒の育成に取り組めます。										
スクール・ポリシー											

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
アンケート結果より「先生はわかりやすく教えてくれている」肯定的評価、生徒92%、「授業への満足度」も80%と評価できる。C層以上の1年生の目標達成は評価できる。また、読書や新聞記事の活用、キャリアノートの活用など、教職員がベクトルを合わせて取り組んでいる様子が分かる。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
新聞やテレビ等の報道を見ても、校外活動や主権者教育、地域や国との連携により教育活動の質を高める取り組みが効果的に行われている様子が分かる。校外において出会う生徒もとても落ち着いており、規律等を重んじた教育の充実を図っていることがよくわかる。校外活動への参加は7割程度達成している。		
【チーム学校】	評価	【 B 】
学習と将来設計、地域貢献が繋がっている取り組みだと感じる。様々な学校評価アンケートの数値の向上が見られるのも、校長のリーダーシップのもと組織的に取り組んでいるからだと思う。 遅刻数の多さが議論となったが、生徒の特性に合わせた指導をされていると思う。様々な取り組みから多くの社会経験が積めるよう構成されており、社会性の育成の効果が期待できると思う。		

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分									
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・1年: (29.5%)⇒(40%) ・2年: (29.5%)⇒(45%) ○授業外学習時間の増加 ・授業外学習時間をほとんどしないと回答する生徒の割合 ・1年(26.0%)⇒(25.0%以下) ・2年(12.0%)⇒(10.0%以下) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・高校3年で将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合:78.3%⇒80%以上	・放課後の補力補習、小テスト等の実施 ・進路学習室の活用(始業前、放課後) ・補習の充実(進学、就職対策) ・AI教材「すらら」の活用(個別最適学習) ・漢字検定、英語検定、ワープロ・情報処理検定や各系列別検定受験の推進、補習の実施	B ○C層以上の生徒の増加(第1回) ・1年: (42.4%) ・D3層:31名(21.5%) ・2年: (25.0%) ・D3層:40名(33.3%) ○授業外学習時間の増加 ・授業外学習時間をほとんどしないと回答する生徒の割合 ・1年(22.6%) ・2年(44.4%) ○授業外学習時間:60分以上(平均) ・1年:77名(48分) ・2年:58名(43分) ○資格取得数…延べ195名 ・キャリアノートの活用…放課後SHで2分間	・引き続き基礎学力の定着・向上 ・全学年で補習や個別指導を実施 ・AI教材「すらら」の活用 ・自学ノート等の活用と回答方法の周知 ・資格取得指導を継続的に実施 ・キャリアノートの継続的な活用	B ○C層以上の生徒の増加(第2回) ・1年: (41.2%) ・D3層:38名(29.0%) ・2年: (34.5%) ・D3層:30名(25.2%) ○授業外学習時間の増加 ・授業外学習時間をほとんどしないと回答する生徒の割合 ・1年(40.1%) ・2年(55.7%) ○授業外学習時間:60分以上(平均) ・1年:49名(37分) ・2年:39名(31分) ・毎朝10分間の読書を実施 ・毎週水曜日に新聞記事を全校生徒に配布 ・資格取得数(1月)…延べ201名 ・キャリアノートの活用…放課SH(2分)	・引き続き基礎学力の定着・向上に取り組む ・AI教材「すらら」を活用して個別学習に取り組む ・引き続き朝読・新聞学習の実施 ・資格取得への取り組みを継続実施 ・引き続きキャリアノートを活用し、自学ノートなど授業外時間の学習時間を把握する	
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○校外活動への積極的な参加 ・R6 410回以上(1人1回) ○キャリアパスポートの作成 ・各学期記入⇒継続 ・キャリアノートの活用	・インターンシップの実施 ・ものづくり総合技術展への参加 ・ボランティア活動への参加 ・外部招聘事業の活用 ・規範意識の醸成 ・礼儀・態度の育成 ・キャリアノートの日々の点検 ・NIE実践指定校	B ○校外活動への積極的な参加 ・各種ボランティア(ナツボラ等)…延べ135名 ・インターンシップ…36名 ・インタビューシップ…17名 ○キャリアパスポートの作成…1学期末に実施	・引き続き、校外活動への積極的な参加(ボランティア等) ・ものづくり総合技術展への参加 ・生活改善週間など学校全体で指導を充実 ・生徒情報等の共有により声掛けによる未然の指導	B ○校外活動への積極的な参加 ・校外活動等…延べ286名 ・インターンシップ…36名 ・インタビューシップ…17名 ○キャリアパスポートの作成…毎学期末に振り返りの時間を設けた	・校外活動へ積極的に取り組む ・引き続きキャリアノートを活用し、キャリアパスポートの作成を実施 ・規律ある生活習慣の確立に取り組む ・規範意識や他者を思いやる態度や礼儀の育成を継続して実施	
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 ○教員の指導力向上 ○専門高校・教科の魅力化	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(65%以上) ○教員のプレゼン指導力向上 ○地域、関係機関との連携回数:5回以上 ○資格取得率の向上 ○農場等における植物の観察や実験・実習の実施	・各系列の特色を活かした連携強化 ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の充実 ・インターンシップ、インタビューシップの充実 ・あじさいまつりや地域の各種イベントへの参加 ・ボランティア活動への参加 ・検定・資格取得に向けた補習の実施 ・教員の専門力向上を図る研修会等への参加 ・実験・実習等の観察記録ノートの点検	B ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(58.8%) ○地域、関係機関との連携、ボランティア活動、各種イベントへ積極的に参加 ○教科及び系列独自の資格取得率の向上に努めている。	・教員のICTを活用した授業 ・資格取得率の向上 ・高知大学地域協働学部との連携、調査の企画	B ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(60.2%) 1年(59.1%)、2年(52.5%)、3年(68.5%) ・校外活動への積極的な参加 ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の研究成果報告会の実施 ・各種ボランティア活動への参加	・各系列の特色を活かした高大連携強化 ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の充実 ・地域の各種イベント、ボランティア活動への積極的な参加及び声掛け ・検定・資格取得に向けた補習の実施 ・教員の専門力向上を図る研修会等への参加 ・実験・実習等の観察記録ノートの点検	
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数:各教科学期に1回以上 ○「総合的な探究の時間」の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結びつけている成果物の割合:75%以上	・各教科、各系列の特色を活かした連携強化 ・公開授業週間の実施(年2回以上) ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」のテーマ設定、活動内容等の充実	B ○公開授業週間の実施(5月～6月) ○「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の充実に努めている。 ・自然や地域資源に係る調査をはじめ、地元の歴史や文化を探究する活動を実施	・公開授業週間の実施(10月～11月) ・教科「情報Ⅱ」の教科横断的授業の実践	A ○公開授業週間の実施(5月～6月、10月～11月) ○高知若草特別支援学校との相互授業参観の実施(11月) ○「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の充実 ・自然や地域資源に係る調査をはじめ、地元の歴史や文化を探究する活動を実施	・公開授業週間の実施(年2回以上) ・各教科、各系列の特色を活かした連携強化 ・特別支援学校との連携 ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」のテーマ設定、活動内容等の充実	

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地域・大学等の連携 ○進路保障	○地域との連携・協働 ・高知市、春野町商工会議所との連携(インターンシップ含む) ○専門学校や各種学校との連携 ○進路実現に向けた系統的な進路指導の実施	・学校運営協議会の開催 ・各系列の特色を活かした連携強化 ・「産業社会と人間」「なすプロ(総合的な探究の時間)」の充実 ・インターンシップの継続実施 ・就職アドバイザーの活用	A ○産業教育PRイベントへの参加 ・地域人材との連携(生活クリエイト系列、なすプロ) ○学校運営協議会の実施(6月) ○インターンシップ(7月～8月に36名参加) ○インタビューシップ:17名参加	・継続して地域人材との連携を図る。 ・高知大学地域協働学部との連携、調査の企画 ・インターンシップの成果検証 ・進路指導の充実を継続 ・就職アドバイザーの効果的な活用	A ○地域人材との連携(各系列、なすプロ等) ○インターンシップ、インタビューシップの実施 ○学校運営協議会の実施(6月、2月) ○3年生進路状況(94.2%決定) ・四年制大学20名(内4名:国公立大) ・短期大学8名 ・専修各種64名 ・就職37名(内2公務員) ・未定他8名	・地域との連携・協働を継続実施 ・学校運営協議会の委員選出 ・大学、専門学校と連携した取り組みを継続実施 ・インターンシップを継続実施 ・進路実現に向け、系統的な進路指導を継続実施
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・他人事として捉えない意識改革 ・法令順守の意識喚起 ○校内研修の実施回数(年3回) ○不祥事防止委員会の実施回数(年3回)	・校内研修の実施(不祥事防止対策研修等) ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底	B ○不祥事防止対策に係る校内研修及びアンケート等の実施(4月、6月、7月、8月) ○教職員の当初面談による聞き取りや個別面談によるメンタルヘルスの状況確認を実施	・定期的に不祥事防止対策に係る校内研修やアンケート等を実施する ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底	A ○不祥事防止対策に係る校内研修及びアンケート等の実施(4月～2月)計32回 12月⇒成績処理ミス防止、学校評価、部活動 ○教職員の最終面談による聞き取りや個別面談によるメンタルヘルスの状況確認を実施 ○風通しの良い職場環境づくりの徹底 ○相談窓口の周知徹底	・定期的に不祥事防止対策に係る校内研修やアンケート等の実施 ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○チーム学校の取組 ○分掌等役割の平準化	○年休等の休暇取得推奨 ○部活動の休養日の遵守 ○会議の精選(PCの活用)	・部活動の計画的な実施(随時) ・会議資料の事前確認(PCの活用) ・ペーパーレス化の推奨 ・教員業務支援員の活用	B ○分掌等役割の平準化は組織職員会で確認して運営にあたっている。 ○部活動の休養日の遵守(ほぼ達成) ○会議の精選(PC活用によるペーパーレス化100%実施)	・分掌業務の平準化に向け、業務・組織の見直しを検討 ・部活動の計画的な実施を継続 ・会議資料のデータ化を継続 ・教員業務支援員を活用し教員の業務負担を軽減させる	B ・分掌、学年、教科会の定期開催により、情報共有と業務の見直しを図った ・部活動は月ごとに計画を立て、休養日の順守はほぼ達成した ・職員会議はPC活用によりペーパーレス化を実施	・H担任の負担軽減や分掌業務の内容など見直しをさらに進める ・規律ある部活動を継続する ・各種会議の事前資料確認や協議事項の精選(ワークライフバランス) ・タブレットの有効活用 ・教員業務支援員の継続配置